新宿駅前のチンチン電車

5000形

これは新宿駅前を走っていたチンチン電車を復元したものです。チンチン電車とは、車道に敷かれたレールを走っていた小さな電車で、今みたいに車がたくさん走っていないころは、日本全国、いや世界中のまちにたくさん走っていました。普通は路面電車といいます。チンチン電車と呼ばれたわけは、運転手さんのほかに乗客の相手をする車掌さんが乗っていて、運転手さんのあいずに専用のひもをひっぱって、その時チンチンと鐘がなったからだといわれています。この模型にも、そのひもがついています。電車が通る時はすごい音がしたので、まちの人々からは「わめく鬼」ともいわれました。

キップ

このころは電車に乗るためにはみんな紙のキップを買いました。キップを車掌さんにさしだすと、車掌さんは「改札パンチ」というもので、乗ったという証拠に、ぱちんと穴をあけました。大正 9 年(1920)の値段は 7 銭です。今のお金にすると 0.07 円、とても安いですね。

運転席を見てみましょう。左のハンドルは速度などを調節するコントローラー、右にあるのがブレーキです。

運転席

電車を正面から見てみましょう。上に行き先がでています。「新宿驛」と書いてありますが、「駅」の漢字が難しく、右から左に書いてあるからわかりにくいですね。真ん中より下に 5001 と書いてあります。これは 5000 形という電車です。最初にチンチン電車が走った明治時代には 1 号車があって、だんだん数が増えてきました。今走っている荒川線の電車には 8900 形（2015 年導入）があります。5001 の 1 は一番最初に造られたという意味です。5000 形は昭和 5 年（1930）に製造されて、昭和 43 年（1968）まで使われていました。当時この電車は最新のもので、それまで木でできていた車体に鉄が使われました。大型だから大きな道しか走れません。行先は新宿駅前から月島(11 系統)、両国駅前（12 系統)、新宿通りや靖国通りを走っていました。

電車のとなりの「安全地帯」と表示してある少し高くなったところが、乗り場です。乗客の安全のための交通標識みたいなものです。

皆さんは、新宿駅東口にある花園神社のとなりに「四季の道」という小さな道があるのは知っていますか？ あの道はチンチン電車が走っていたあとです。少し先にある新宿文化センターは、むかし電車の車庫で、この 5000 形電車はいつもそこにおかれていました。